



認定こども園 下関短期大学付属第二幼稚園
山口県下関市彦島塩浜町2丁目2-21 ☎ 083(266)5821

灯火親しむの候

読書の秋。10月27日から11月9日は読書週間です。テレビを消し、スマホを置いて、一家で本と過ごしてみられてはいかがでしょうか。最近、「家読（うちどく）」というのが見直されているそうです。家読というのは、「家族ふれあい読書」の意味で、読書を通じて家族の絆を実感し深める取組です。それぞれの本を読んでもよし。時にはみんなで同じ本を読み、感想や思いを言い合うのもよし。風や虫の声をBGMにみんなで過ごす時間。ちょっとした「おうちキャンプ」の気分になれますね。



その家読の参考にしていただけたらと、本園職員にお薦めの本を挙げてもらいました。

本の題名	作者・絵	内 容	紹介者
花さき山 (1969) ☆	斎藤隆介 作 滝平二郎 絵	「やさしいことを一つすると花が一つ咲く」黒を基調とした迫力のある切り絵によって、美しい方言を用いた民話風の作品に魂が見事に吹き込まれています。主人公のあやのような子に育てほしい、きれいな心をもちたい、親子にそう思わせる作品です。	寺本
パパはウルトラセブン (1999)	みやにしたつや 著	パパの娘に対する愛情がいっぱいの本です。自分の父もこんな風に思ってくれていたのかもしれない。「うちは、男の子だし」というパパには「おとうさんはウルトラマン」。ママには「ママだってウルトラセブン」がありますよ!!	大野
ころりん・ば! (2019)	ひらぎみつえ 作	ページに描かれた曲線や渦巻、数字に沿って埋め込まれたパーツを走らせていく仕掛け絵本。視覚、触覚、聴覚のすべてに楽しく働きかけ、未満児だけでなく文字に興味をもつ初期段階としても指を動かして数字を書くことが楽しくなる一冊です。	宮本
ちょっとだけ (2007) ☆	瀧村有子 作 鈴木永子 絵	二人目出産のときに贈り物として頂いた絵本です。お姉ちゃんになって何でも自分でやろうと頑張る姿を見て嬉しい反面、「ごめんね…」という気持ちになったのを覚えています。当時も今も自分と娘の気持ちを考えると読むたびに涙が出る絵本です。子育てで忙しい合間に読まれるのがおすすめです。	豊海
まるまるまるのほん (2010) ☆	エルヴェ・テュシ 作 谷川俊太郎 訳	黄色い丸一つから始まる新感覚の絵本です。丸を押ししたり、こすったりすると丸が増えたり散らばったり…そして絵本を傾けると丸が集まったりとまるでマジックショーを見ているかのように魅力的な作品です。	倉重
どうぞのいす (1981) ☆	香山美子 作 柿本幸造 絵	うさぎさんが作った『どうぞの椅子』に動物たちがやってきて、次々ととりかえっこが繰り返されます。「次の人におきのどくだから・・・」と、親切をありがたく受け取り、次にやってくる動物のことを思いやります。「どうぞ」に込められた優しさ、思いやる気持ちが伝わってきます。	野口
えんとつ町のプペル (2016)	西野亮廣 作・絵	煙突町に住む人々は黒い煙で星空の存在を知りません。しかし煙突掃除屋のルピッチだけは父から聞いた星の存在を信じていました。ある日ゴミ人間プペルに出会いルピッチとプペルは友達になり、互いを信じあって星を探しに行く友情溢れる物語です。私はこの絵本を読んだとき涙が出るほど感動しました。とてもオススメの一冊です。	新田
おいしいのぼっけん (1974) ☆	古田足日・田畑精一 作 田畑精一 挿絵	押し入れに入れられているさとしとあきらが協力して押し入れの中にいるネズミばあさんと戦うお話です。私自身子どもの頃に先生に読んでもらいとても怖かったのですが、楽しかった記憶がある絵本です。ドキドキワクワクが詰まった子ども達だからこそ想像が膨らみ、楽しめる作品です。	田中
ラチとらいおん (1965) ☆	マレーク・ベロニカ 文・絵 とくながやすもと 訳	主人公のラチは世界一弱虫な男の子。ある日突然現れた小さな赤いライオンが心の支えとなり、ラチが少しずつ強くなっていくお話です。私がこの絵本に出会った頃、不安で登園を嫌がるわが子に手作りの赤いライオンを持たせ、園へ送り出した母親が何人もいたようです。この絵本を読んだ親子を勇気づけてくれる作品です。	沖田
おへそのあな (2006)	長谷川義史 作・絵	お母さんのお腹にいる赤ちゃんが、お母さんのおへその穴から見る外の世界を描いた絵本です。お兄ちゃんやお姉ちゃん、お父さん、幸せな家族の光景が広がり、赤ちゃんが生まれるのを心から楽しみにしている様子が伝わります。家族への赤ちゃんの初めての言葉、「あした うまれて いくからね…」親子でぜひ読んでほしい心温まる一冊です。	中島
テーブルマナーの絵本 (2011)	高野紀子 作・絵	下関短期大学栄養健康学科の先生方も推奨しておられます。お箸の正しい持ち方やお箸でしてはいけないこと、美しい食べ方、配膳方法等々、大人が読んでためになる絵本です。小学生向けのようにイラストがふんだんに盛り込まれているので幼児でも理解できると思います。ただ、漢字表記もありますので親子で読まれるのをオススメします。	大河原

☆は園の絵本の部屋にもあります。

どの絵本も名作です。ぜひどれか手に取ってみてください。 (園長 寺本 明生)